



横浜市立相沢小学校 9月号 R5.8.31

学校だより

学校教育目標

学びあい 認めあい 支えあい 夢をはぐくむ あいざわっこ



ちきゆう いまわたしたち
地球のために今 私 達ができることは

こうちょう みやじ
校長 宮路 ますみ

今年ことしの夏なつを一言ひとことで表あらわすとすれば「猛暑もうしょ」ではないでしょうか。日本にほんでは、全国ぜんこくの平均気温へいきんきおんが100年ねん余りあまで最も高たかかったそうです。気候変動きこうへんどうや異常気象いじょうきしょうを研究けんきゅうしている東京大学海洋研究所とうきょうだいがくかいようけんきゅうじょの今田由紀子准教授いまだゆきこじゅんきょうじゅによれば、1900～1949年ねんでは、その地域ちいきにとって「50年ねんに1度ど」の確率かくりつで起こるような暑あつさは38度前後どぜんごでしたが、2000～2022年ねんになると、38度どは「3年ねんに1度ど」以上の高頻度こうひんどになり、「50年ねんに1度ど」の確率かくりつで起こる高温こうおんは、41度前後どぜんごに達たっしたそうです。(NHK千葉放送局ちばほうそうきょく WEB特集とくしゅうより)

これらの猛暑もうしょの原因げんいんは、エルニーニョ現象げんしょうやラニーニャ現象げんしょうといった自然現象しぜんげんしょうに、都市化としかによるヒートアイランド現象げんしょう、そして地球温暖化ちきゅうおんだんかが複雑ふくざつに重なり合あっているためだと、今田准教授いまだじゅんきょうじゅは推察すいさつしています。自然現象しぜんげんしょうは防かぎようがありません。しかし、地球温暖化ちきゅうおんだんかについては、人間の知恵にんげんちえである程度抑制ていどよくせいできることはわかっています。適切な対応てきせつたいおうを世界全体せかいぜんたいで行おこなっていかないと、暑あつさによる健康被害けんこうひがいや農作物のうさくもつへの影響えいきょうは、さらに深刻化しんこくかしていく恐れおそがあると今田准教授いまだじゅんきょうじゅは警鐘けいしゅうを鳴らしています。

私達わたしたちに今いまできることは何なんなのでしょう。この途方とほうもなく大きな課題おおきなかだいに人類じんるいは立ち向むかおうとしています。次の時代つぎのじだいを担になっていく子ども達こどもたちが、まずこの問題もんだいを自分事じぶんごととして考かんがえることが大事だいじだと思います。今地球いまちきゅうじょう上で何なにが起おこっているのかを知しること。そして、自分じぶんができることを模索もさくしていくこと。こうした取組とりぐみが、やがて大きな実みを結むすぶ契機けいきになるのだと信しんじて、相沢小学校あいざわしょうがっこうでは学校全体がっこうぜんたいで「持続可能な社会じぞくかのうしゃかいを実現じつげんしていくことを目指めざした教育きょういく」を行おこなっていきます。ぜひ、地域全体ちいきぜんたいで、地球温暖化ちきゅうおんだんかについて考かんがえていきましょう！